

特別展
11月23日(月・祝)まで
「幻の名窯 湖東焼—彦根藩窯の盛衰—」
江戸時代後期に彦根で焼かれたやきもの、湖東焼。その全貌に迫る展示です。

テーマ展
11月27日(金)~12月24日(木)
「戦に備える—彦根藩の武具管理—」
江戸時代、甲冑などの武具はほとんど実戦で用いられなくなりますが、武士の必需品であったため、大切に扱われきました。彦根藩の武具管理の実態を、それを担った人びとを通して紹介します。



■展示解説 11月28日(土) 14:00~14:40
解説:当館学芸員 場所:講堂
当日受付(先着25人) ※無料(観覧料は別途必要)

彦根城博物館の学芸員が、各自の研究テーマについて、日頃の研究成果を踏まえて解説します。

12月19日(土) 14:00~15:30
「侍中由緒帳」からみえる世界

彦根藩士の具体的な行動や、それを通じて見える藩の制度などについて解説します。



定 25人(当日先着順)
場 講堂
料 100円(市内中学生以下無料、観覧料は別途必要)
他 講師:竹内光久

■11月24日(火)~27日(金)は展示替えのため一部休室します。
■【休館日のお知らせ】12月15日(火)、25日(金)~31日(木)

お知らせ

市民一斉防災訓練
「シェイクアウトひこね」

参加しましょう



地震発生直後の安全確保行動を身につけるため、どこでも・誰でも気軽に参加できる訓練を実施します。地震発生時に備え、ご参加ください。

① 11月18日(水) 10:00~(約1分間)
② それぞれの自宅や学校、職場など(各自で行います)

【参加方法】
① 次のいずれかの方法で11月17日(火)17:00までに参加登録(参加人数を把握するため)
▶ 彦根市ホームページの申込フォーム(右のQRコード)



▶ 危機管理課などに設置しているチラシに必要な事項を書いて、FAX、郵送、直接危機管理課窓口のいずれか

② 訓練当日に安全確保行動
エフエムひこね(78.2MHz)や、市内36か所に設置した同報系屋外放送設備などからの訓練放送を聞いて、地震による揺れを感じたという想定で、「まず低く」「頭を守り」「動かない」行動をしてください。
※詳しくはお問い合わせください。
☎ 危機管理課 ☎ 30-6150 FAX 23-1777

消防だより

消防本部予防課 ☎ 22-0332 FAX 22-9427

11月9日~15日

秋季火災予防運動

「その火事を防ぐあなたに金メダル」

住宅火災・命を守る7つのポイント

- 3つの習慣
- ① 寝たばこは、絶対やめる。
 - ② ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
 - ③ ガスこんろなどのそばを離れるときは必ず火を消す。
- 4つの対策
- ① 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
 - ② 寝具、衣類、カーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
 - ③ 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
 - ④ 高齢者や体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

防火ポスターコンクール結果

消防本部管内の小・中学生に、正しい火の取り扱いや住宅用火災警報器の設置を推進する作品を募集し、次のとおり入賞作品を決定しました。

- ▶ 彦根市消防長賞
家田結衣さん(佐和山小5年)
- ▶ 彦根防火保安協会会長賞
谷村和奏さん(西中3年)
- ▶ 金賞
衣笠純加さん(佐和山小3年)
植田菜衣さん(城西小5年)
中川碧彩さん(彦根中1年)
- ▶ 銀賞
木原寧音さん(城北小3年)
岡山杏奈さん(佐和山小5年)
西村佳穂さん(東中2年)
- ▶ 銅賞
佐竹希泉さん(佐和山小3年)
岩崎悠人さん(城南小4年)
桂田瑛仁さん(彦根中3年)

彦根市消防長賞・家田結衣さんの作品を、秋の火災予防運動ポスターに採用しました(彦根防火保安協会会長賞・谷村和奏さんの作品は、春の火災予防運動ポスターに採用予定)。



119番通報するときは、慌てず落ち着いて

11月9日は、昭和62年から地域住民と消防をつなぐ電話番号にちなんで、「119番の日」と定められています。
消火活動や救急・救助活動は1分1秒を争う時間との勝負です。もし、慌てて場所などを正しく伝えられなければ、災害現場への到着が遅れ、被害が拡大し大惨事になったり、助かるはずの命が助からなくなったりする場合があります。
落ち着いて、正しい通報をするように心がけてください。
☎ 消防本部通信指令課 ☎ 22-0119 FAX 27-0119

湖東焼色絵鳳凰文鉢



その技法を説明しなければならぬからです。もし解明できなければ、できる限り表現が近づくように工夫します。写真の作品のざらざらとした素地の風合いや鮮やかな色による模様表現などは、九谷焼を

江戸時代後期に彦根で産声をあげたやきもの、湖東焼。これを鑑賞する際に、せひとも着目していただきたいのが、「写し」と呼ばれる手法です。写しとは、既にある作品を模して作ること。やきもの世界では、中国の唐三彩を写した日本の奈良三彩、美濃地方で生み出された織部焼を写した織部写し、京焼の名工、野々村仁清の作品を写した仁清写しなど、数々の写しが行われてきました。湖東焼でも多くの写しが行われ、その代表的な例が、井伊家伝来の鳳凰文鉢(写真)です。江戸時代に加賀大聖寺藩で制作された九谷焼を写した作品で、青と緑、黄を中心とする鮮やかな色彩表現と勢いのある筆致を特徴とする「青手」の九谷焼を写しています。こうした写しに戸惑いを感じる人もいるのではないのでしょうか。安易な人真似だと思つてもいいかもしれません。現代は、個性を重視する傾向があるため、写しは評価しにくい存在です。

加えて言えば、写しは、ただ先人の偉業をたどるだけのものでもありません。写しのもとなる作品はしばしば本歌と呼ばれます。これは、和歌の「本歌取り」つまり、既に知られた歌を本歌としてその句を詠み込み、本歌を背景に組込んで表現に奥行きを与えたり、本歌を題材として取り入れてそのイメージを拝借しつつ、新たな趣向を生み出したりする手法に由来します。写しは単なる模倣ではないのです。和歌の本歌取りが盛んになるのは鎌倉時代以降。和歌文化が成熟し、名歌が多くの人に共有されるようになってからのことです。同様に、やきもの写しは盛んに作られるのは、やきもの文化が成熟し、広く共有されるようになってからのことです。

【彦根城博物館学芸員 奥田晶子】

写真の作品は、特別展「幻の名窯 湖東焼—彦根藩窯の盛衰—」で11月23日(月・祝)まで展示します(期間中無休)。

湖東焼と「写し」

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ
じゅうぶんに観察し、技法や素材についてもよく理解を深めた上でないと、到底作り出すことができません。

第290回